



## 編集幹事での経験

染川 智弘†

### My Experience of Editorial Committee Manager

Toshihiro SOMEKAWA†

本誌の編集に幹事として携わってもう10年以上になるが、出版社からゲラ刷りが上がってきてチェックするのが幹事の仕事のひとつである。このレーザーコンパスも学会事務局近くに居室があることから、いろいろな著者の記事を誰よりも早く拝見させていただいているのではないと思う。ご存知のように、コンパスを執筆する方は著名な方が多い中、私のような若輩者に執筆の機会を頂けるのは大変名誉なことである。このような執筆の機会を頂いたのも編集幹事の功績が大きいことから、編集幹事として本誌の編集に10数年携わった視点から、編集委員の仕事を紹介することで、本誌を身近に感じて頂き、学会員の皆様に有意義に本誌の利用を検討していただければ幸いである。

昨今の論文デジタル化の波が押し寄せる中、本誌も変革を検討しながら、コロナ禍でも月1回の発刊を継続している。基本的にあるテーマに沿った論文を複数集めた特集・小特集号の形式を取る。そのテーマに対して基礎から詳細に解説するチュートリアル的な要素が含まれる場合を小特集号としている。例えば、私が編集を担当した48巻11号「レーザーリモートセンシング技術の最新動向」特集号では、6本の解説記事と2本の勧誘オリジナル論文から構成される。6本の解説記事は著者の最新の成果に関してまとめていただいたので特集号という分類である。また、同テーマの特集号の企画として依頼して執筆していただくオリジナル論文を勧誘オリジナル論文としている。本誌の後半にある「Self-focus」で今後の特集号のラインナップを紹介し、テーマに関連したオリジナル論文も募集しているのだが、勧誘オリジナルのほうが少し原稿の締め切りが長い。また、先日の本誌ではあるテーマとしては集まらないが面白い解説を集めた編集委員の特選号も発刊した。最新の成果は、英語のインパクトファクターが高い論文への投稿を検討される方が多いと思うが、それらの成果をまとめた日本語での平易な解説論文は本誌の目玉ではないかと思う。一方、オリジナル論文では、日本語で査読者とのやり取りが可能であるため、初めて論文を執筆する学生であっても取り組みやすい。今後、論文を執筆する練習にもなるのではないかと私が指導する学生にも勧めている。また、関連する国際会議の参加報告などを掲載するレーザーフラッシュもあり、最新の研究動向の概要が会議に参加しなくてもわかるだけでなく、今後の会議参加を検討する判断材料を提供できているのではないかと考えている。最後に重要なのが論文前後の広告記事である。掲載半ページ3万円(税抜き)から、関連分野の特集号のみでも広告を掲載することも可能であるため、企業の方におかれましては、広告も検討していただければ幸いである。

本誌の編集委員会は、月に1度、東京、大阪で各月開催している。2020年の4月からはコロナに対する委員の安全を考慮してZoom開催になっている。私も4月～6月は在宅勤務をしており、編集委員会に自宅から参加したが、こういった経験はこれで最後になることを願っている。通常の顔を合わせる編集委員会では、旅費は学会に依頼すれば支払ってもらえるのだが、委員会活動自体はボランティアであり、時間が取られることになる。その為、開催地を2つにすることで、なるべく負担が少ない開催地で参加してもらいたいという狙いである。また、委員会への参加がなくても特集号の企画で貢献されている委員も多数おられる。この編集委員会では、印刷された本誌のチェックと、来月号のゲラチェック、今後の企画や決定した特集号の進捗確認、一般投稿論文の進捗確認などが議論される。

本誌での特集号が発刊されるまでのプロセスを紹介する。基本的には編集委員が各自の分野で特集号を企画するのだが、他の委員や年次大会でのアンケート結果から、「こんな特集号が読みたい」との要望で企画することも多い。企画は複数回の委員会で内容を議論した後、内諾作業、執筆依頼となる。論文が投稿された後は担当編集委員が主にエディターとなりハンドリングしていく。また、ゲストエディターの制度もある。編集委員がカバーできていない分野では、第一線で活躍されている方に企画を依頼し、同様の手順で企画を固めていく。実際の編集作業は、担当の編集委員を決めてサポートをしていくため、依頼をされた際は安心して企画していただきたい。自分の分野を産学官にアピールすることが可能であるため、いい特集企画がある方は、お近くの編集委員が学会事務局にご一報いただければ幸いである。

†(公財)レーザー技術総合研究所 上席研究員(〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-6)

† Senior Researcher, Institute for Laser Technology, 2-6 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871